

摂食嚥下障害者に対する舌筋力、骨格筋量、脳血流量を指標とした機能評価に関する研究

著者	仲澤 裕次郎
学位名	博士(歯学)
学位授与機関	日本歯科大学
学位授与年度	2018
学位授与番号	甲第1193号
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00000870/

氏 名(生年月日)	仲 澤 裕次郎 (昭和59年 3 月21日)
本 籍	栃 木 県
学 位 の 種 類	博 士 (歯 学)
学 位 記 番 号	甲 第 1 1 9 3 号
学位授与の日付	平成31年 2 月22日
学位授与の要件	
学 位 論 文 題 目	摂食嚥下障害者に対する舌筋力、骨格筋量、脳血流量を指標とした機能評価に関する研究
論 文 審 査 委 員	主 査 都 築 民 幸 副 査 里 見 貴 史 今 井 敏 夫

論 文 内 容 の 要 旨

摂食嚥下リハビリテーションの効果を客観的指標に求める場合には、患者の状態に応じた指標を用いることが重要である。身体機能が維持されている者に対する研究では、横断研究として65歳以上の外来患者178名（平均年齢 79.4 ± 7.2 歳）に対して、Functional Oral Intake Scale（以下、FOIS）、舌筋力、Mini Nutritional Assessment-Short Form（以下、MNA-SF）、Skeletal Muscle Mass Index（以下、SMI）、Barthel Index を評価した。追跡研究では88名（平均年齢 79.4 ± 6.9 歳）を対象として、各項目の関連性と1年後の摂食嚥下リハビリテーションの効果について検討した。身体機能、認知機能が障害され経口摂取をしていない者に対する研究では、重症心身障害者9名（平均年齢 48.1 ± 12.4 歳）を対象として、経管栄養注入のみの場合と、注入前に一部経口摂取した場合の脳血流量を測定し、以下の結果を得た。

- 1）舌筋力はFOIS, SMI, MNA-SF と、SMIはMNA-SF, FOIS, 舌筋力、性と有意な関連性を示した。
- 2）摂食嚥下リハビリテーションによって、舌筋力は有意な増加を示した。
- 3）舌筋力の増加量は、介入開始時のSMIおよび舌筋力と有意な関連性を示した。
- 4）経管栄養注入前に経口摂取することで脳血流量が有意に増加した。

以上より、患者の状態に応じた摂食嚥下リハビリテーション効果を客観的に示す指標が明らかとなった。

論 文 審 査 の 要 旨

本研究は、摂食嚥下機能障害者に対するリハビリテーションの効果を客観的に示す指標について、患者の状態ごとに検討を行ったものである。認知機能、身体機能が比較的保たれている者に対しては舌筋力や骨格筋量が摂食嚥下リハビリテーション効果の指標になることが示された。また、認知機能、身体機能が著しく障害され、経口摂取をしていない者に対しては脳血流量が摂食嚥下リハビリテーション効果の指標になる可能性が示された。これらは、摂食嚥下リハビリテーションを行う際の客観的指標になりうるものであり、博士（歯学）の学位に値するものと審査する。